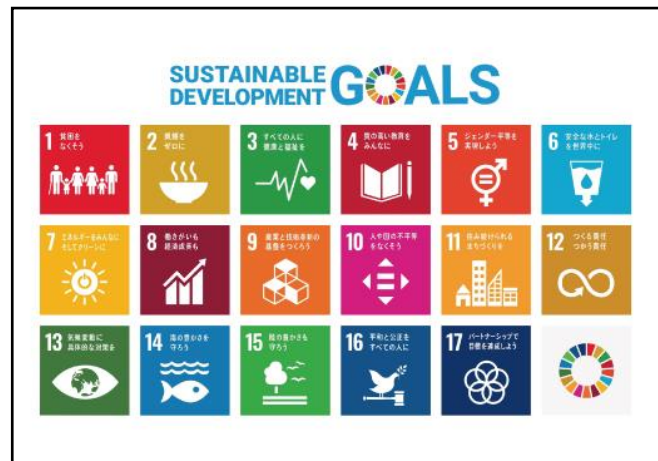


## SDGs（持続可能な開発目標）とは

2015年9月に国連本部で開催された第70回国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダには2016年から2030年までの間に、世界で達成すべき17の目標と169のターゲットが盛り込まれており、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development GOALS）と呼ばれています。

SDGsとは「誰一人取り残さない」という包摂的な世界の実現を目指す理念の下、持続可能な開発のためのさまざまな課題解決に向けた世界共通の目標です。2030年までのSDGs

達成に向けて、途上国のみならず先進国の政府、民間企業、NGO、自治体、個人などあらゆる方々が関連する取り組みを積極的に進めることが求められています。



## SDGs「新鮮野菜販売で地域活動プロジェクト」



いどばた会の皆さんは、地域にお住まいの仲の良い友人グループです。田舎では、農家でなくとも昔から自分で食べる分だけの野菜などを育てていました。それを「菜園」とか「さえん」とか呼んで、季節の野菜を作ってきました。しかし、野菜は一気にできてしまうため、収穫期には自宅だけでは食べきることは出来ずに腐ってしまい廃棄する家庭も多いのが現実です。そこで、いどばた会の皆さんと当法人での共同プロジェクトが始まりました。さかのぼること5年前に、たまたま当法人の生活支援コーディネーターといどばた会の皆さんがお茶を飲んでいた時に、この野菜の廃棄の話が出ました。そこで、川内さんが思いついたのは、「捨てるくらいなら安く売ってほしい」という主婦感覚の真っ当な考えでした。話はトントンと進み、当法人が運営する特別養護老人ホーム鹿屋長寿園の玄関口に無人販売コーナーを設置し、そこで季節の野菜を全部100円で売っていただくことになりました。新鮮な野菜はスタッフや面会に来られたご家族、また、病院受診に来られた方々など幅広く購入し

ていただいています。その資金を活用して、いどばた会の皆さんは、地域の活動（新たな野菜のタネの購入や地域高齢者の見守り活動など）を展開されています。これにより、野菜の廃棄は起きなくなり、野菜を安く購入できる人が増え、地域活動の資金が生まれました。そして何よりも、いどばた会の皆さんのやりがいにもつながっているということが素敵です。

